

そらんぽへ行こう

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

特集展示

「没後20年 丹羽文雄と手紙」

を開催します

今年、本市出身で昭和を代表する作家・丹羽文雄（1904－2005年）の没後20年を迎えました。これにちなみ、博物館3階の常設展示室・白里亭で、9月9日（火）から「丹羽文雄と手紙」をテーマにした特集展示を開催します。

丹羽は、数々の作品を発表しながら同人雑誌「文学者」を主宰し、若い作家たちが作品を公表できる場を20年以上作り続けました。

同人の一人で、芥川賞作家の河野多恵子が丹羽に宛てた手紙には、丹羽の著書を読んだ感想や、自身の新規連載についての相談などがつづられており、先輩作家を慕う様子が伺



丹羽文雄宛 河野多恵子の書簡

えます。

そのほか、田村泰次郎や近藤啓太郎といった同郷の作家や家族から丹羽に宛てられた手紙も展示します。手紙に記された言葉を通じて、丹羽の人物像の一端をひも解きます。

また、10月19日（日）には丹羽文雄の孫でプロデューサーの丹羽多聞アンドリウさんによる記念講演会を開催予定です（事前申し込み）。没後20年の節目の年に、丹羽文雄のことを知ってみませんか。

詳しくは、博物館のホームページをご確認ください。

文化財さんぽ

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

四郷の歴史的景観に寄与する

神楽酒造 酒蔵兼釜場・西酒蔵

四郷地区は、19世紀に味噌、醤油、酒、酢などの醸造業が盛んになり、製茶や製糸業とともに三重県の経済を牽引しました。その一つである神楽酒造は、かつてさまざまな工場が林立して栄えた、この地区の往時の景観を伝える建造物です。

神楽酒造の酒蔵兼釜場は、2階建て切妻造りの東西棟で、南側に釜場が突出しています。1階は土間で、現在も洗米場、蒸米場、麴室などに利用されており、瓶詰め作業も行われています。内部は作業場としての大規模な空間となっており、柱や梁の重厚な構造部材が



神楽酒造 酒蔵兼釜場（室山町）

迫力を感じさせます。

西酒蔵は酒蔵兼釜場に接しており、両者は一体の建物のように見える形状をしています。現在、2階は倉庫、1階は仕込みの作業場として活用されているほか、一部は酵母室や神楽酒造の歴史を伝える道具や資料を保管・展示する展示室としても利用されています。

酒蔵兼釜場および西酒蔵は、四郷地区の歴史的景観に寄与する建造物であり、令和7年8月6日付で国登録有形文化財（建造物）として登録されました。